

民主主義社会における 市民型教養のあり方を探る

九州大学 大学院法学研究院 教授
関口正司



研究の背景

政治学は、議会や政府などの政治制度の現状や、政治に影響を与える政党や社会集団の動態を診断し、よりよい政治の可能性を研究する学問です。政治家や市民をどう育成するかも、政治学の重要なテーマです。政治や社会の仕組みがどんなに立派でも、運用が拙劣では良好な結果は望めないからです。

過去の政治思想や政治哲学は、このテーマに関する知見に富んだ宝庫です。豊かで多様なだけに、研究者が一人一人単独で取り組むよりも、協力して研究するほうが効果的です。そこで私たちは、政治哲学や政治思想史を専攻する九州大学の研究者を中心に「九州大学政治哲学リサーチコア」を7年前に結成し、共同研究を始めました。

研究の成果

政治や社会をになう人間に必要な資質を研究するには、知識や心構えばかりでなく、実際の行動とのつながりにも目を向ける必要があります。私たちは、知識や心構えと行動の全体を含み込む見方である「型」に注目してみました。「型」は武道や芸能に限らず、日常生活のさまざまな分野で大きな役割を果たしているという発想です。これが、『政治における「型」の研究』という成果につながりました。市民教育の実践的研究との関連では、イギリスでシティズンシップ教育の制度設計にかかわった政治哲学者バーナード・クリックの著

書『シティズンシップ教育論』を翻訳し、日本の読者に紹介しました。さらに、民主主義社会を支える教養や教育のあり方に関するさまざまな思想を比較の観点から検討する作業グループを作り、科研費の支援を得て研究を始めました。現在は、その成果を刊行物として公表するための作業を進めています。

今後の展望

現代の政治学では、政治や社会をになう市民の育成というテーマへの取り組みは始まったばかりです。民主主義が夢や理想ではなく現実になってから、まだ時間があまりたっていないからです。とはいえ、統治者教育論は古典の中にたくさんあります。時代や文化のちがいに配慮は必要ですが、参考になりそうなものがたくさん埋もれています。それらを引き続き掘り起こしていきたいと思います。また、市民型教養全般への目配りとともに、市民に必要な政治に関する基本的な知識・技能・態度（政治リテラシー）の要素を分析して、大学などの教育機関の政治学教育や公民教育への活用法を探究したいと考えています。

関連する科研費

平成21-24年度 基盤研究(B)「<教養>の比較思想的な研究——市民型リベラル・アーツをめざして」



図1 関口正司編『政治における「型」の研究』
風行社 2009年



図2 バーナード・クリック『シティズンシップ教育論』
関口正司監訳 法政大学出版局 2011年